

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成28(2016)年
4月号
通巻548号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成28年4月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



富士山遠望、静岡県沼津市漁港にて

奈良市 和田保さん撮影

平成5(1993)年4月23日 月次祭法話より

宗教の根本とは何か

法主 矢追日聖 (満81歳)

宗教を批判する時期

先程、元(青山日元さん)が言ったように、今年は桜が散るまでが非常に長かったです。毎年、須佐緒祭の時には花は少しか、葉桜の日が多い。これは自然の気の働きですので、我々人間にはどう仕様もない。四月十日に「えん」の方達の日本舞踊の催しがあったので、いい具合に花が残っていて結構やったなって勝手に喜んでいます。

最近毎日のように統一教会の山崎浩子さんの話が煩いほどテレビに出ています。けれども、あんな事を放送してくれるのはいいなと思うんです。心ある者はああいう話を良く聴いて、一体宗教とは何かということを自分なりに判断してもらったら、いい教材になると思う。

大倭では、宗教とはお互いに人間が幸せになつていく為の教えです。とかく宗教団体となると、先生達や教祖の言った事がその一つの目標になつてきて、結局、皆が盲目的に信じるという事になるんです。けれども我々人間の目玉は二つついているのだから、両目で物を見なくてははいけません。片方で見ても上手いかな。だから私は大倭の皆さん方に対して、大倭の宗教が有難いとか、何も考えないで盲目で信仰して欲しいなんて事はよう言いません。まあ確かに人間には信じるという盲目な面もなければいけないけれども、もう一方で、理性という良い悪いを判断する知識が人間には

与えられているんだから、両面から物を見なければならぬ。

宗教というのは一つの麻薬と一緒に、信じたら自分の理性がなくなってしまう。それは昔から宗教の大きな弊害ですね。唯物主義者の人は宗教は阿片だと言ったらしいですけど、私も全くそう思います。両目を開いていけばいいけど、盲目で信じるから阿片になってしまう。世界の宗教団体を見た時に、宗教があるが為に人殺しをする様な事が起こってみたいね。この間もアメリカのテキサスで何十人か自殺してるとか、最近テレビでも色んな種類の宗教が出てきてます。

今は、宗教そのものとは一体何かということ批判できる、いい時期だと私は思うんです。

社殿信仰

「黎明大倭」の「逆巻く怒涛乗り切らむ」っていうのは、何も海越え波越え行くんじゃないんですよ。丁度今の時代の宗教は本当に大きな怒涛渦巻いている世相だという事なんです。大倭の皆さんは、その中に巻き込まれないで乗り越えて行くという、大倭的な信念をもって欲しいと思う。歌詞の最後の「昭和維新の比登柱」というのは、どういう宗教が流行ってきてても自分は自分なりの信念で生きていくという事なんです。

宗教団体というのは団体我というものが出てくると、害悪になることがあるんですよ。団体我があればあるほどその中間を迷わしたり、不幸にするとは私は考えています。ただ日本は法治国ですから、宗教的な仕事をするのに法を犯しては仕事が出来ないので、大倭教も一応宗教法人をとっています。国からは団体として認められているけれども、私はこの事は何とも考えておりません。

人間はどうすればお互いが一生幸せに暮らしていけるか。それを自分の信念として、生き甲斐を感じながら日々を送っていけるか。そういう人間づくりをしていくのが宗教の根本なんです。

その中で、神さんやら仏さんやら訳のわからんものを対象にした時、神さん仏さんをわかっている人はおそらく少ないと思うんです。ただ昔から人が言ってるから、ああ仏さん神さんっていうのがあるんだと観念として思うだけであって、捉えるということをしている人は少ないと思う。

例えば伊勢神宮にお参りして、これが天照大御神あまてらすおみさんかと思込んで来た人は誰もいないと思う。あそこで一生懸命拜んでいる神主さん自身わからんと思うわ。天照大御神は結局太陽信仰のシンボルでお日さんの事ですから、そんなもんを社の中やしろに祀つたらえらい事ですよ。

建物が立派だと、ああこの神さん偉いとか、偉いお寺さんだと思うのは、はっきり言って社殿信仰です。形を見て拜んでるだけで、本当に神さんを見て拜んではいけない。まあ人間、立派な社殿ほど尊敬するところがあるらしいですね。

大倭的な信念を

私は昭和二十年八月十五日から、大倭教として宗教の活動を始めました。私が牛のケツ叩いて作業している時でしたから、人が相談に来られた時も糞の束を置いて腰据えて、そこで色んな話をしていたんです。ところが雨が降った時に困るんですね。雨がかららない程度のもを建てたらどうかというので、掘立小屋を建てた。それがこの旧拝殿です。

それでね、大倭の神さんはよく効くとか噂を聞いて色んな人が出てくる。ある人が、大倭の為に

なるだろうと、知り合いの金持ちを説得して連れてきても、掘立小屋を見て「あ、こんな宗教あかん」って逃げ帰った人は沢山いるんですよ。そういう風なところから私は出発してます。神さん仏さんではなく、社殿信仰というのが日本人の癖なんです。形の立派なお宮さんにお参りする人は多いはずですよ。

大きなお堂を建てている宗教団体は信者の数が多い。けれども結局、宗教企業だから、もしその信者達が不幸になった時に救ってくれるんでしょかね。

私がここで生活保護法による救護施設を最初に作った時に、例えば火葬場で寝ている人とか、お寺の縁の下で寝起きしている人とか、奈良県下の、俗にいう乞食が連れてこられたんです。その中に、どここの宗教を一生懸命信仰して、お金を沢山あげたら神さんが助けてくれると思って財産を全て投げ出してしまった。さて今度は自分が食べられないようになって病気になるたら、お前出て行けと放り出された。そんな人が結構いたんです。まあ世の中にはそういう宗教団体があるんです。それはその宗教団体幹部のやり方で、本当の神さんがいるならそんな事は出来ないんですよ。

私が見ていると大きくなる宗教団体ほど、この宗教に入ったら金が儲かる、病気が助かる、人の世話にならずに死ぬると、利益を説きます。そういうのが一つの魅力なのか、人が集まってくる。今日までの日本の宗教を扱っている人達がそんなアホな事言うもんだから、神さんに対してお金を沢山出したらご利益多いみたいと思うんですね。これははっきり言っておきますが、何万円渡しても一億持って来ても神さんは助けません。霊界の人はそんな物にこだわらない。ところが沢山お金を持っていったらご利益が多いとか、嘘で騙さ

なかつたら金も人も集まって来ない。今の時代、そんな意味で色んな宗教が沢山出て来ている。大倭の皆さん方はそんな事に巻き込まれず、自分自身なりに大倭のいき方でいつまでも信念を持って行って欲しい。

まず排他主義はいけない。大抵一つの宗教団体に入れば、一番先に自分の宗教が良い、絶対的だ立派だと主張する。その代わりに他所の宗教に入っている人達は気の毒だけれど可哀想な人だと言う。だから私のところの宗教に入れてあげなさい、一人連れ十人連れて来てそれで功德がありますと言って騙している。信者獲得を一生懸命やるんです。

又、その人達も団体にお金を入れなければ幹部になれないし肩書きはつかない。そんな人間の一薄弱环节のところを以て信者を段々増やして組織的に拡大していく。するとマンモス教団が出来上がって皆がお金出すから、立派な堂塔伽藍が出来ます。立派な建物になってきたら、甘いところに蟻が寄ってくるように、人が引つかかって集まる。悪循環になっていく。それが現代の実情なんです。

自然神と人格神

この拜殿に祀っている人格神も偉い人でもなんでもない、我々と同じ人間だけれど、ちょっと昔に死んでいる人です。奇稲田姫命は古い人で、光明皇后は聖武天皇の皇后です。草香姫というのは私の母親が的確に霊界をみる人でして、楊貴妃の娘だと言うんですね。光明皇后が預って世話をしてきた。私がこの山に入った時に夜な夜な出てこられて、昔の人だから衣擦れの音がして来るんですよ。それで私の仲間としてお祀りしてある。そういう肉体を持たない人間が、肉体を持って

いる我々人間と交流し、仲良くするという事が一番いいです。仲良くしなければどちらも不幸になるというのが根本問題なんです。

家の血筋や地縁の絡みによって自分の宿命というものを皆さん持っています。あなた達にも沢山ご先祖さんがいるんですから、何もわざわざ遠くの神さん仏さんを拝みに行つてご利益下さいとか言わなくても、自分のところのご先祖さんと子孫の者が仲良くなるのが一番身近な問題なんです。肉体を持たない人間と、肉体を持っているあなた達と仲良くさえすれば、これが一番幸せになる道です。

天地自然の自然霊というような「加美」さんに対してお参りするということは、どこにいたつていいんです。感謝の心で毎日拜んでいたら、お日さんでもお月さんでも何でもいいんです。我々人間が生かされているのは土や草木や空気があり、お日さん輝いてお月さんあつて、そういう色んな自然の条件の中で生きさせてもらっている。自分で生きているのではない。生かされているんです。生かされている以上は感謝する心が無かつたら駄目なんです。子供が親に感謝するのも理屈は同じ事です。我々を本当に生かしてくれている天地自然の大慈悲に対して心から感謝しなければならぬ。人格霊は霊体の場所に行つてお参りするのが一番いい。お参りではなく仲良くしに行くんですよ。ご利益の為に拝みに行くのではなく、仲良くしに行く。大倭の文化行事もそんな意味で出かけるので、その区別をして欲しいと思うんです。

自然神、自然霊に対しては心から感謝する。だから私は百姓をしていた時でも、例えば大根一本を抜いたら畑が空きます。穴を空けておくのは土に対して済まないと思うので、手で埋める。土から物を生み出してくれているのだから、本当

の加美さんですよ。ここで百姓をしてきましたけど、私はずっとそういう気持ちでおりました。土も木も皆加美さんで、その条件によって我々は生かされている。その感謝の心で日々を暮らすということが第一条件なんです。

二番目が、自分達は肉体を持っている人間だから、肉体を持たない人間と仲良くするという事。私は兄貴だから先祖をみてるとか、弟だから祀らなくていいと言う方がよくおられますが、これは絶対にいけない。弟だろうが兄貴だろうが、嫁に行こうが、先祖さんは皆一緒ですから、先祖さんに対しては帰依する。仲良くする。例えば自分の親が生きている時にお酒が好きだったらお酒、餅が好きだったら餅を供えてあげる。お祖父ちゃん、お祖母ちゃんおあがんなさいというように、生きている人と同じような気持ちで仲良く交流する事が、霊界で生活している人も幸せになるし、我々現界の家族もそれによって助けられて幸せになる。どここの神さん、どここの神社に行つて幸せにしてくださいって百万陀羅拜んだつてそれは関係ないんです。

例えば何かの事故で、酷い災難にあうところを軽く済んだというのは、霊界の人が助けてくれるんですよ。それは自分達が親しくしている霊界の人ですから、ご先祖さんなんです。だから仲良くするというのが一番大事です。

又、住んでいる土地に昔の人の靈魂があつた場合、土地にいる霊界の人と自分がそこで仲良くしなければ不幸になっていく。そういう意味で、私が鎮めた人格霊を、祀ってもらっている家庭も沢山あります。それは幸せになる為にそうするのはなく、そこにいる霊界の人達を慰めて自分と仲良くするという事なんですね。そうすれば相手も人間で我々も人間ですから、人間同士の心と一緒に

やはり子は可愛いし自分の家族は可愛いしね。飼っている犬でも他人さんと自分の家族と區別して守ってくれます。それはその家が幸せになる為に祀っているのではなく、霊界と現界の人達が仲良くすることによって、その家庭も家族が一人増えて幸せになっていく。色々助けてくれる。そんな現象が出てくるんです。

宗教というのは、そういうところをはっきりと自分で見極めて、お互いにそういう心でいくと喜びが増えてきます。

おらかな精神状態を自分でつくっていく

心に栄養を与えるのが宗教の世界なんです。けれどももな栄養を与えなければね。この神さん拜んだらご利益貰える、病氣治るとか、嘘で騙したような暗示を与えるのは良くない。それよりも自分の精神状態を良くしていくべきです。

まず人に対してあまり極端な好き嫌いを作らない事。人間はやっぱり喜怒哀楽があるから、好き嫌いがあります。けれども、極端な偏見を持つことは良くない。誰でも仲良くしていくようなおらかな自分の精神状態を自分でつくっていく。そういう人間づくりが宗教の根本です。

だから何か一つの行事にしても、皆がこうやって集まってやる事によって人間の心と心の結びつきというものが深くなっていくんですね。仕事でも演劇でも何でもいい、一緒に何かをすれば一人一人の心の状態・内容をお互いに掴む事が出来る。人間の心というものがわかってきて、心と心の調和が段々と深くなっていくと思うんです。だから、こうやって集まっている一つの集団が、お互いに心と心の交流をはかって皆が喜びを持って

日々を暮らしていく事で人間づくりになる。それが宗教の根本だと思う。

十日の日も、ここで「えん」の人達が立派な催しをしてくれました。それに参加している人も、企画して考えている人達も、人間関係が強く深くなっていく事によってお互いに明るく楽しく暮らしていけると思う。

死ぬという事を自覚する

神さん拜んだら助けてもらえるなんてくだらない事信じないで、人間は生まれたら死ぬという現実をはっきり認識してもらった方が、死ぬ時に楽だと思えます。霊界に行く前に、喜びをもってその世界に行くような自分の心積もりですね。

私も今年で八十二歳になりますけど、こういややこしい心臓を持った肉体だから、後もう五年くらいに思っただけの心の中を毎日整理してます。お迎えが来た時は、この世の中に何も思っていないように、自分が死んで端の人が苦労しないように自分をちゃんとしておきたい。

百も二百も生きると思っただけで人生暮らしていたら大変なことです。そんなことを皆さん方もよく考えて、心の中に死ぬという事を信じて欲しい。死ぬという事を信じたら色々な事を考えられるし、色々な事が出来ると思う。だから命のある間は一人でも多くまじめな人間関係を広げていくということが、一番人生の幸せだと思います。

孤独になったら駄目です。皆が手を繋いでこの世の中で霊界に行くまでの間暮らしていけるように、自分をつくらなきゃいけない。神さんはしてくれませんか。誰でも仲良く出来るように、自分でしなきゃ。

大倭の神さんはどれだけ拜んでもらってもご利用

益ありません。その代わりに、ここに怖い神さん沢山いらっしやるからまじめな事教えてくれます。私が代表で相談役になってますが、私が神さんの心に添わなかったら命ありません。神さんに逆らえば、ちよつと心臓を捻ってももの一分であらに行くと言われています。

簡単に言いましたけど、現実に人間と人間が仲良くして行くことはむづかしいと思うんです。そういう意味で、この間の「えん」の人達の仕事をみていて私は嬉しかったです。大倭の場所で見られるとかがあれば、皆さん方によってどんな風にも利用してもらっても構わないんです。私が死んでも残るし、この中には人間の所有物など一つもありません。大体、所有権なんてものは、死んだあくる日から消えてしまふんだから、本質的に自分の物なんて何一つないんです。この肉体そのものも自分の物じゃない。世の中の全てが仮り物ばかりで生きさせてもらっているのだから、人間はあまり欲深い事を考えない方がいい。それより心の中で楽しくお互いが暮らしていけることが一番大事だと私は思っています。

私はご利益信仰は嫌ですが、例えば霊障害なんかで大倭に行ったら助かるかもしれないという気持ちで来る方もいると思います。私はそんなのは否定しません。その人達は困っているのだから、私の力で処理出来る問題があれば、相手が喜ぶ事をしたらそれでいいんです。どれだけ来られても見料を出せとか、世間みたいな事言いません。そんなことを考えたらくビですから。

大倭はそういう雰囲気だと心得てもらったら有難いと思います。生きている間の私の心というものはつきり掴んでもらったら、私がいなくなつた後も幸せに生きてくれるだろうと私は信じます。

(文責・編集部)

青山日元さん追悼特集

(前号の続き)

私がいつに居る

奈良市 芝 香須弥

青山日元さんは、母の父に当たる人で、私の祖父になる。小さい頃、「日元さん」と呼んでいた。大きな声で挨拶しないとよく叱られた。20歳になった頃、突然、「おじいちゃんと呼ばしてくれ」と母に言ったらしい。それから「おじいちゃん」と呼んでいる。

私が結婚する時、挨拶に行くと、自分が大倭に来るようになったわけを話してくれた。「いくら仕事に行こうとしても体が動かないで、大倭の方へならば体が動く。そんなウソみたいな話、本当やねん。良かったのか悪かったのか……」。すべてを捨て大倭に来るしかなかったおじいちゃんの人生。自分の意志とは別に、まさにそれは運命としか言いようがない。

おじいちゃんが大倭に来る時、まだ小さかった母が妹の節子といっしょに連れてこられた。家もない、電気も水道もない、何もなかった大倭での3人の生活はどのようなものであったか。想像を絶するものであったことだろう。2人の子供の苦難の様子を、いつも間近で見ているおじいちゃんの心中は、張り裂けそうであったにちがいない。自分のせいで子供たちに苦労をかけてすまないという思いが絶えずあったようだ。

おじいちゃん! おじいちゃんが大倭へ来たか

ら、今私がここに居るんだよ。おじいちゃん、長い人生、お疲れさまでした。

香須弥さんへの手紙より

青山 日 元 (満83歳の時)

拝復、お便りありがとうございます。

毎日ご苦労様です。ヘルパーという仕事もなかなか大変な事と想います。私はただあなたのお仕事の一端を拝見させて頂くだけです。病院の職員さんは勿論の事、入院の患者さん一人一人に対しても職業という立場を越えて親切に接して頂く言葉の一言に於ても、相手が納得のゆくように話して頂くのを耳にして、私も本当に頭のさがる思いが致しました。

こうした事は教育とか学問ではなく先天的にその人が持つて生れてきたというのでしょうか……事の善悪は別に致しまして、同じ事を同じ様に言うても言葉遣い一つでその人によって実にゾンザイに聞こえることもあります。特にヘルパーさんや看護婦さんの仕事は、時間に制限があり一人にだけ関わるわけにもいきませんが、事務的に俗に木で鼻を括ったような、味もしゃりりもないものの言い方をする人もある。

実に微妙なところなのだが、それは総て誰の為ではなく、帰するところ自分から出て自分に帰ってくる、法主様が常におおせ下さいました。一にも二にも損得で考える人もいるが、物事は出発・終点であるのが神ながらの摂理です。

(中略)

昭和二十二年正月六日、天の定めか俺が否応なく大倭に来てしまった。それまでは貧しいながらも親子六人仲良く暮していた。特にうちの夫婦は近所でも仲の良い夫婦で通っていた。それが如何

なる神のイタズラか、急転直下別れなければならなくなりました。それが幸であったか不幸であったかは、香須弥君の想像に任せます。

来る十月三十日は、法主様が地位も名誉も捨てて妙月かあさんと子供さん四人と共に、今の大倭の掘立小屋に移って来て頂きました記念日です。

それまでの約三ヶ月、小学三年生のチャーチャン(※反保良さん、香須弥さんの母)と一年生の節子が、乞食にも劣る生活をよくこそ辛抱してくれたと思う。今考えてもぞつとする。夏休みに母親に言われてもつと好い所と思って来たら、大人でも怖いような所だ。節子は「雨が降ってほしかった」と書いた(※『大倭新聞』第12号)。雨なら法主様の家に泊りに行けたからだだが、その年は早魃であまり雨が降らなかった。時に、俺が大坂へ出向いていて法主様の家に行っていて、夜道、二人を両方の駕籠に乗せてかついで山まで帰ったことがある。節子が溝に落ちて、着る物がないと泣いた事もありました。その節子も亡くなり三十二年、時はとどまる事なく転化して参ります。

(中略)

法主様が常に、ここ大倭で臍の緒を切った者が中堅となつてくれる様になった時代が、大倭の本当に軌道に乗る時やおつしやうって頂いておりました。誰が何をすると言うのでなく、今現に与えられた仕事に精進して下さい、祈ります。

又後便。 日元拜 平成九年十月十七日

◇

藤本宏秋さんへの葉書より 2006・10・15付
刻経ちて水の流れに想うかな

その源の如何に遠きを

昭和二十二年正月六日、大倭入門当初、想うともなくこの様な歌が浮かびました。(略) ……本年で九十三歳(数え年)になりました。(略) ……

寸 莎

第118回

中島 佐栄子さん



子供時代の思い出

今回登場してもらおう中島佐栄子さんは、小学一年生の時に大倭で暮らしてはじめて現在に至るといって、紫陽花邑の歴史の大半を経験してきた方である。昨秋に心臓の大きな手術を受けて、今はリハビリに努めつつ大倭印刷に少しずつ職場復帰をしているところである。今回の取材では、子供時代のことを中心にじっくり語っていただいた。

佐栄子さんは昭和二年六月二〇日に大阪で生れたが、「オシメのとなれないうちに」東大阪にあつた父方の家族に引きとられた。「祖父母や伯母達など皆で世話してもらい、当時は貴重だつた着せかえ人形をあてがわれたりして、何の不自由もなく小学一年生まで育てられた」

祖母の武若光恵さんは生母さん（法主様の母、日妙師）の妹にあつた

り、「生母さんを通して法主さんに相談し、小学一年生の夏休みに、父の檀義も住む大倭に何も事情を知らない私を連れてきてくれたのだと思う」と語る。

大倭の第一印象は、「鏡池に睡蓮が咲いていて、澄んだ青空に赤トンボが飛んでおり、きれいなところ」というものであつた。ところが東大阪での不自由のない生活とは全く違つていて、「水道はなくて池の水を汲んでこなくてはならないし、食事もサツマイモや麦ご飯ばかりだつた。自給自足的な生活で、子供達もマキ拾い、草刈り、水汲み、麦踏み、掃除などと用事がいっぱいあつた」と環境の激変に驚いたことだろう。でも佐栄子さんの子供らしい素直な感覚は柔軟だつた。「法主さんはじめ周りの大人や子供達がやさしく受け入れてくれたので、あまり抵抗なくここでの集団生活に入つていけ

た」というのだ。

「実の父親はいても、その頃の子供達皆の父親役は法主さんが果たして下さつていて、学校の保護者も法主さんの名前だつた。法主さんは本当に「お父さん」という感じで、その後の私の人生の進路を引っぱつてくれて、それに従順についていったという感がある」としみじみと語る。

「朝夕、今の拝殿のあるあたりで子供達のお詣りがあつて、聖歌を歌い、「嘘をつかないこと。一、約束を守る。一、責任を果たすこと。一、陰日向のないこと」という大倭の教訓と一緒に唱和した。そのことは今でも体の中に入つていて大切に思つている」という。

高校は、当時、県立奈良高等学校北倭分校で家庭科の授業の多い女子高があつて、洋裁、和裁、茶道、華道などを学び、生徒会副会長も務めた。「高校に行きながら大倭の施設でオシメ替えを手伝つたり、大倭印刷の仕事を手伝つたりして、ほとんど友達と遊びに行つたりすることはなかつた」とのことである。

高校卒業後は大倭安宿苑の施設で働くという話もあつたが、結局大倭印刷で仕事をすることになった。

昭和四五年五月三日に二一歳で大倭印刷の責任者だつた中島健さんと結婚。その後、佐登彌、佐緒里、武

宣の三人の子宝に恵まれた。

子育て時代には仕事を中断したが、その後も教務所や大倭印刷での主に事務仕事にかかわつてきた。

「四〇歳の時に仕事にパソコンが導入されて慣れるまで肩こりに悩まされた」という苦労話もしてくれた。

「十年以上前に健康診断で心臓肥大を指摘されていた。ここ数年父親の介護やその他の負担も重なつて、

これ以上放つておくと危険だと診断され、昨年天理よろづ相談所病院で心臓弁の手術をしてもらつた。今は脈や血圧は安定してきて、リハビリを続ければ半年くらいで元気になると言われている」と希望を語つてくれた。この間のご主人や子供達の支えも心強く、「健さんはよく手伝つてくれた」と感謝している。

子供の頃に東大阪でよく面倒をみてくれた叔母の武若登代子さんが大倭の施設に入所して、「叔母さんより先にいくわけにはいかないの

で手術を決断した」という。「法主さんが霊界の人達と交流されている姿を見てきただけに、現界と霊界がつながつていてという考え方には全く抵抗がない」と話す佐栄子さんに、育ての親である法主様への強い信頼を感じる。「少しゆつくりと楽しみたい」というのが今の心境とのこと。（聞き手 岸田哲吾）

大倭千一夜 (其の二十五) 昭和41(1966)年12月23日発行『大倭新聞』第25号より再録

新婚奇談あれこれ

——徒然なるままに心霊のくさぐさを喋る夜ばなし

法主 矢追 日聖 (満55歳)

人を呪わば

よく見かけるね。あまりよい感じのしない代物だが、運転する者にはよい薬になるだろう。

最近、国道の道ばたなんかかなり増えてきたように思う。事故死の場所を記念するつもりで墓標型に造って花を供えてあるのか、それとも死者への供養の意味で標柱を立てて、再びかかる事故のおきないようにとの祈りなのか、それはともかくとして交通妨害にならないければ、それでいいじゃないかと思う。

死んだ人の霊ですか？

それは一概には言えないよ。この世に深い執念を残して非業な死に方をした人の霊は悪魔のようになって、世を呪うたり、人を犯したりするよ。こんなのはほんの一部の人だと思うがね、魔の踏切とかよく言う所で、色々な事故を起こす場合がある。不浄霊の障りと思う。

と言っても、通る人の誰かれなしに障るものではない。障るのに最もよい条件をもった人が、最も都合なチャンスに出合った時に一大惨事となるものだよ。つまらんことを考えてぼっとしては駄目だということだね。心すべきだよ。

霊の働きはね、電波のように遍満しているのだが、その霊の拠点は沢山あるよ。交通事故などで死んだ人は、その最期の所が最も霊波の強く発する所のようにだが、こういう人はそ以外に、住ん

でいた家や、骨の埋めた墓地や、大切にしていた所持品やまた氏名などが、時に応じてそれぞれ霊波の出る拠点になることもあるんだよ。

面白い話かね？

近いところでは、昨・四・一一年(※実際の発行日が昭和42年に入っていたのかも)三月の月次祭の日だったよ。祭典が済んだあと、ある参詣者から次のような相談をもちかけられた。たしか、この人の知り合いの弟さんだったと思う。

二月初旬の吉日に芽出度く結婚式を挙げ、南紀白浜の方面へ新婚旅行に出かけたようだ。ところが、海岸の景色のよい所など見物していると新郎の方が急に泣き出して顔の相も異状になり、胸が押しつぶされるように苦しくなったらしい。新婦の方は驚いて家に連絡して、家族に連れられて帰宅したが、それから気がふれてさっぱり治らないから困っているという話である。聞くからに涙をもよおす気の毒な事情であった。

縁の不可思議

早速私はい例の如く、本人の氏名と年齢及び住所を聞いてメモし、この哀れな新郎の霊波を引いてみた。完全な精神異常であるが、この人の霊波と共に別な波長がついてくる。これは霊的障害だと分かったので一寸安堵したわけ。

その別な波長を調べてみると中年の女性で、どうも生活苦のような悩みのはて、高い岸壁から飛

込み自殺を遂げた人のようである。

こういうことがあるから昔から無縁さんに供養する習慣が残っているし、また、こんな場所には死者の冥福を祈り、悪霊的な障りを無くするために、石の地藏さんなどを祀っているものと思うよ。

そこで私は、自殺した南紀の婦人の霊を慰め浄化してやったのだが、結局はこの若夫婦と思わぬ縁を結んだのだから、法名をその場でつけてやり、この若夫婦の家で祀らせるようにこつつけた。

話はこれだけだが、その後間もなく治ったようだ。次の月次祭には、この若夫婦揃ってお札に詣っていたよ。

話せば何でもないことかも知れないが、一寸考える必要があると思う。人間は死ぬ時の心境がいかに大事であるかということですね。

もしこの世にあれこれ思いを残して死んだとすれば、その思いは悪想念となって、必ずこの世の誰かを不幸にすることになるのですよ。心してほしいことだね。特定の人に恨みや呪いなどもつことは最もいけないことで、人間の面をつけた畜生の類だね。

人間に生まれたことを最高の喜びとし、日々の生活には心から感謝し、死に臨んでは、心明鏡の如く、何ものにも囚われない人であってほしい。このような人の霊は必ずこの世の人々を多く幸福にする力を発揮してくれるのです。

死んだら最後、自力での浄化向上は難事の中の難事ですから、現界で生きている間に、臨終の瞬間にでもよろしい。死後に備えて、日々修養してほしいですね。



あじさい日誌

3月13日 午前11時から大倭会館で青山日元さんの五十日祭が行われました。

午後2時から拝殿で祓会。久しぶりに栃木県茂木町の欽ちゃんこと中野英樹さんと東大阪市の嶺本佳秀さんが参加。お二人の近況を聞いたり、約50年以上前のF.I.W.C関西委員会のハミリ記録で「交流の家誕生」3年間の映像を見たりしました。

3月15日 大倭神宮月次祭。3月20日 午前11時から大倭会館で我原利尚さんの一年祭。

3月23日 大倭大本宮月次祭。この日は昭和45年4月8日須佐緒祭の法話を聞きました。

午後4時から大倭会館で大倭

会役員会。昨年度会計報告と今年度予算が了承されました。

3月26日 午前11時から大倭会館でボランティアグループ「あじさいの箱」の総会・懇親会。

始めからの参加者は36年間になるそうで、色々なお話が出ました。

午後6時から大倭会館で大倭町自治会総会。

3月30日 午後2時から(宗)大倭大本宮一般会計と大倭病院の平成28年度予算会議。

なおこの日もって(宗)大倭大本宮の評議員を二十数年の長きに渡ってお引受け頂いた平谷吉高さんが退任されました。

4月1日 午後、西の斎庭で大倭印刷(株)のお花見会。

4月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会。

第330回大倭会文化行事

新緑の一休寺酬應庵(京田辺市)を訪ねる

日にち 平成28年5月22日(日)

第4日曜日 小雨決行

集合 近鉄京都線 新田辺駅 改札口 10時30分

行き先 鎌倉時代創建、一休禅師再興の寺を訪ね付近散策(軽装で参加ください)、一日を過ごす。(昼食はお店で)

交通 (奈良方面から) 近鉄西大寺で京都国際会館行き急行9時57分発に乗車 →新田辺駅10時13分着

問合せ 湯浅芳郎 携帯090-6987-5847

昇ちゃんはずがに83歳という年相応かなという感じだが、この日あたりからまたちよつと「らしき」が出てきた様子……。

4月8日 午前11時から大倭大本宮拝殿において須佐緒祭が行われました。祭典後、拝殿の庇で恒例の口祭り?(直会)。

この日、金沢市のサヒ・るみ子さんと横浜の高杉葵さんがお参りに来られ大倭会館で一泊。

夜、西の斎庭で大倭殖産(株)のお花見会。

4月10日 祓会。久しぶりに中村勝彦さん(三重県四日市市)が参加されました。

卒業・入学 中村哉仁君が小学校へ、吉田優花さんが高校へ入学。竹本良成さんが短大卒業、就職。おめでとうございませう。

大倭安宿宛では

3月18日 午前11時から大倭霊地墓前慰霊祭。須加宮寮で亡くなられた6名の納骨もされました。

4月1日 新卒採用3名含む計12名の職員に辞令交付。

(菅原園)

3月24日 桃山学院大学手話部による歌に合わせた手話で盛り上がりしました。

(須加宮寮)

3月17日 1年間の労をねぎらい作業納めの茶話会。作業環境の改善についても話し合い。

(長曾根寮)

3月15・16日(デイ)トランペ

ツトの吹ける職員による演奏で歌ったりイントロクイズ等。

3月24日(特養)誕生会で11名(内卒業2名)の方のお祝い。

(茂毛路園)

4月1日 茂毛路園創立9周年記念日で豪華な昼食でした。

(八重垣園)

4月4日 今月から書道クラブが始まり6名が参加されました。

こだまこだま 京都府宮津市 藤本宏秋

4月8日は長男の誕生日でした。お陰さまで12歳、小学6年生。前日には母と伯父夫婦が仕事先の天橋立ホテルに泊まりに来てくれて夕食会もありました。4月10日は料理長のお供で大阪の上本町まで行っているの

で、祓会に心引かれますが……。写真は12日早朝、出勤途中に撮影した阿蘇海(天橋立の内海)での日の出です。

中国人が大変多い印象です。ご覧になったかと思いますが、先日NHKテレビで、中国は今、仏教ブームだと知りました。企業の経営者クラスやエリート

の若者が、中国社会のコネや汚職、拝金主義のストレスや不安から、仏教に救いを求めているそう。

習近平も積極的に支持しているそう。将来的に日本にもお遍路なんかやりに中国人が増えるのでは、ということでした。

キリスト教信者も凄く増えてるけど、政府はキリストが政権より上になると困るので、仏教の方が支持しやすいとのこと。

一方、日本では、Amazon(アマゾン)でお坊さんの宅配が三万円ちよつとで出来るということに仏教団体が反発しているというニュースに、思わず笑ってしまいました……。

あんない

*月次祭(大倭神宮)

5月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第568回祓会

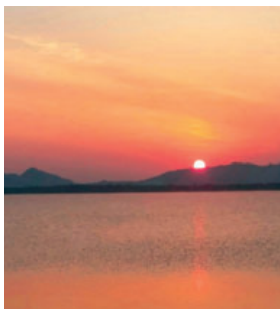
5月8日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

*月次祭(大倭神宮)

5月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大本宮)

5月23日(月) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。



こぼれずみ

神奈川県大和市 永坂まゆり
横浜は中華街もあるからか、